



いきものふれあいの里

「陶史の森」 だより

土岐市ネイチャーセンター ☎5144

春の女神 ギフチョウ

黄色と黒色のだんだら模様が錦絵のようにきれいな『ギフチョウ』。江戸時代には「だんだら蝶」や「錦蝶」と呼ばれていました。ギフチョウの名は、明治時代に名和博士が現在の下呂市で採集し、命名したことに由来します。生息地域は日本の本州全域ですが、たまたま岐阜県で再発見されたため「ギフ」の名が付いているのです。春、桜の咲く短い間だけ、きらめくように姿を現し消えていくことから、『春のはかない生き物』、『春の女神』ともいわれています。

ギフチョウは、カタクリ、シヨウジョウバカマ、サクラ、スミレなどの花の蜜を餌にします。花の開花時期に合わせて羽化するので、サクラの開花が遅れる年は羽化も遅れます。早く羽化しても餌がないことを知っているのです。卵がふ化する時期も、幼虫の餌となる「カンアオイ」の若芽が育つ時期と一致します。カンアオイの葉の裏に産み付けられた卵が、柔らかく大きく育った葉を食べられるようにしているのです。自然と同調したその仕組みは、自らの餌を確保すること、わが子の成長にも困らないようにと考えられた見事なものです。

私たち大人は、次代を担う子どもたちが困らないように何をしておくべきか。ギフチョウに学ぶことがあるのかもしれない。

森	の
日	記

シイタケ教室 2月5日(日)

毎年大人気のシイタケ教室。今年も『広報とき』で紹介されると申し込みが殺到し、すぐに定員に達してしまいました。参加者は原木に穴を開ける方法やシイタケ菌の打ち方を学習した後、お互いに協力しながら電動ドリルで穴を開け、金づちで駒菌を打ち込みました。菌を打ち込んだほだ木からシイタケが出るのは1年後。皆さんは収穫の喜びを想像しながら、ほだ木を持ち帰りました。



植物銘板の取り替え

陶史の森にはたくさんの植物があります。以前から主だった植物には名前が書かれた銘板が付けられていました。これが、古くなったり汚れて見にくかったりしていたので、冬の間に新しく作成しました。森のあちこちに約400枚の銘板が設置されていますので、散策の際は参考にしてください。

教室のご案内

4月

- ギフチョウ観察会(自由参加)
4月8日(日)午前9時～11時30分
ギフチョウの放蝶と飼育方法の解説
- 自然教室(自由参加)
4月15日(日)午前9時～11時30分
春の草花やシデコブシの花を観察
- バードウォッチング(自由参加)
4月29日(日・祝)午前9時～11時30分
春の野鳥を観察(雨天中止)
- 陶史の森で飼育している羊の毛刈り
日時は未定です。電話で問い合わせください。

5月

- 『陶史の森』写生会(要申込)
5月3日(木・祝)・4日(金・祝)午前9時～午後3時
陶史の森の自然や動植物を絵画にします(雨天中止)。対象は、保育園・幼稚園児、小学生です。作品はネイチャーセンターに展示し、入賞者には賞状・賞品があります。
※画用紙、画板は陶史の森で用意します。
- バードウォッチング(自由参加)
5月27日(日) 午前9時～11時30分
春の野鳥を観察(雨天中止)

陶史の森は自然環境保護地域です。動植物や石などは絶対に採らないでください。また、ペットの同伴はご遠慮ください。